



JCRファーマ株式会社

2025年3月期決算説明会

2025年5月13日

イベント概要

[企業名]	J C R ファーマ株式会社
[企業 ID]	4552
[イベント言語]	JPN
[イベント種類]	決算説明会
[イベント名]	2025 年 3 月期決算説明会
[決算期]	2025 年 3 月期 第 4 四半期
[日程]	2025 年 5 月 13 日
[ページ数]	37
[時間]	18:00 – 19:26 (合計：86 分、登壇：42 分、質疑応答：44 分)
[開催場所]	インターネット配信
[会場面積]	
[出席人数]	
[登壇者]	6 名 代表取締役会長兼社長 芦田 信 (以下、芦田信) 取締役 専務執行役員 営業担当 営業本部長 芦田 透 (以下、芦田透)

サポート

日本 050-5212-7790
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com



取締役 専務執行役員 研究担当 研究本部長

藺田 啓之（以下、藺田）

上席執行役員 経営戦略担当 経営戦略本部長

伊藤 洋（以下、伊藤）

上席執行役員 開発本部長

JCR Europe B.V. General Manager

JCR Luxembourg S.A. Director, JCR USA Inc. General Manager

アン・ベシェ（以下、ベシェ）

経営戦略本部 経理部長

太田 義博（以下、太田）

[アナリスト名]*

シティグループ証券

山口 秀丸

UBS 証券

酒井 文義

ジェフリーズ証券

山木田 雅

大和証券

橋口 和明

モルガン・スタンレーMUFG 証券

村岡 真一郎

*質疑応答の中で発言をしたアナリスト、または質問が代読されたアナリストの中で、SCRIPTS Asia が特定出来たものに限る

サポート

日本

050-5212-7790

フリーダイヤル

0120-966-744

メールアドレス support@scriptsasias.com



登壇

司会：ただ今から、JCRファーマ株式会社、2025年3月期決算説明会を開催いたします。

また本日、決算発表と同時に、会長、社長交代を含む来年4月1日付の代表取締役の異動について開示しましたので、併せてご説明いたします。

まず、本日の言語設定についてご説明いたします。皆様のZoomウィンドウの下方にございます通訳アイコンで、オフもしくは日本語、もしくは英語のチャンネルをお選びください。

なお、本説明会は後日、弊社ホームページへ掲載する目的で録画を行っております。

それでは初めに、本日の登壇者をご紹介します。代表取締役会長兼社長の芦田信、取締役専務執行役員営業本部長の芦田透、取締役専務執行役員研究本部長の藺田啓之、上席執行役員開発本部長のアン・ベシェ、上席執行役員経営戦略本部長の伊藤洋、最後に経営戦略本部経理部長の太田義博、以上6名でございます。

続きまして、本日使用する資料についてご説明いたします。本日使用する資料は、弊社ホームページに5月13日16時に掲載いたしました。お手元に資料が必要な方は恐れ入りますが、そちらをご参照ください。

次に、本日の説明会の流れについてご案内いたします。本日はプレゼンテーションおよび質疑応答を含めた、約1時間を予定しております。ご質問はプレゼンテーションが全て終了した後、まとめてお受けいたします。今回は業績関係に加えて、来年4月1日付の代表取締役の異動に関するご質問もあるかと存じますので、終了時刻を30分延長して最長19時30分までを予定しております。

本日は、初めに会長の芦田よりごあいさつをさせていただきます。その後、伊藤より、2025年3月期連結業績および2026年3月期連結業績予想について、アン・ベシェより、開発品目の進捗について、藺田より研究活動の進捗についてご説明いたします。それでは、よろしくお願いいたします。

芦田信：芦田でございます。遅い時間に皆さん、ありがとうございます。2025年3月期はライセンス収入の遅れ、それとコロナ当時の備蓄資材の処分、そして治験用サンプルの使用不可能になったものの処分等いろいろなものを処分いたしまして、約47億円の赤字を計上することになりました。

サポート

日本 050-5212-7790
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com



この赤字は、私が50年前に会社を始めてから3度目の赤字です。今回、落とすものを落として赤字にしたということで、今年度から新しくきちんと利益を出せるようになっていくのではないかと考えております。

また今日、私の後継者である2人の会長および社長を発表させていただきました。JCRは50年前に、いわゆる原料を売る会社として始まったわけですが、50年間ずっとバイオを続けてまいりました。そして、最も力を入れてきたのが研究です。その研究というところに資源をつぎ込んで、新しいものをつくるということを常に考えながら50年間歩んでまいりました。

その結果、今グローバルで臨床開発をしておりますJ-Brain Cargoを使ったライソゾーム病の酵素を始め、いろいろな新しい技術を生んできたわけです。われわれは製薬会社であるとともに、いわゆるバイオベンチャー的なものが会社の半分ぐらい占めているのではないかと考えております。そこで私の後、若い人にできるだけ会社を始めた当時と同じような会社の活力が出るように、若い芦田透、非常に若い藺田と2人で、今後、来年から頑張っって新しいJCRをつくってほしいということで、この2人に託すことにしました。

これまで指名・報酬委員会等で、数年前からいろいろ後継者について考えてきたわけですが、やっと引き継げる条件になったと考えております。30周年のときに、実は私、一旦社長を退いて会長になり、2年間会長を経験いたしました。これもなかなか社長がうまく機能しなくて、また私が会長兼社長を引き継いでやることになりました。それから20年間で、JCRも非常に大きくなったのですが、常にベンチャー精神を忘れずにやっていこうということで、現在までうまく機能したのではないかと自負はしております。

今後この2人を中心に、皆さんで頑張っってJCRがあと50年、100年を迎えられるように、素晴らしい会社になっていくように私も当然サポートしますが、もうそんな長い時間はできませんが、皆さんで将来をつくっていただきたいと思います。ありがとうございました。

伊藤：伊藤でございます。それでは私から、終わりました期の連結業績および今期の連結業績の予想についてお話をいたします。

次のスライドをお願いします。こちらが連結決算の概要でございます。

サポート

日本 050-5212-7790
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com



連結決算概要

連結	2024年3月期		2025年3月期	
	実績	実績	増減額	増減率
売上高	42,871	33,072	△9,799	△22.9%
売上原価	11,620	11,333	△287	△2.5%
売上総利益	31,251	21,738	△9,512	△30.4%
販売費及び一般管理費	23,719	28,389	+4,670	+19.7%
販売・一般管理費	12,484	12,958	+473	+3.8%
研究開発費	11,234	15,431	+4,196	+37.4%
営業利益	7,531	△6,650	△14,182	-
営業外収益	1,056	260	△796	△75.3%
営業外費用	1,324	1,088	△236	△17.9%
経常利益	7,264	△7,477	△14,742	-
特別利益	0	1,065	+1,064	-
特別損失	20	2	△18	△90.0%
税引前純利益	7,244	△6,414	△13,658	-
法人税等	1,736	△1,655	△3,391	-
親会社株主に帰属する当期純利益	5,507	△4,759	△10,266	-
(ご参考) 共同開発先による負担控除前の研究開発費	12,787	16,994	+4,207	+32.9%

対売上高	2024年3月期	2025年3月期	増減
売上原価率	27.1%	34.3%	+7.2%
売上原価率 (契約金除く)	32.8%	34.8%	+2.0%
研究開発費率	26.2%	46.7%	+20.5%
営業利益率	17.6%	△20.1%	-

連結決算概要に関する補足説明

- 前年同期比で減収減益となりました
- 主な要因は、1) 予定していたライセンス契約が当期中の締結には至らなかったこと、2) 製造関係の資材および治験薬等の在庫を精査し、今後の使用の予定がないものについて損失を計上したことです
- 上記廃棄損は売上原価に19.5億円、研究開発費に10.6億円計上しています
- 研究開発費の増加は主に海外の臨床開発体制の整備、人員の拡充および開発の進展によるものです
- 営業外の収益、費用において、今年度は為替差益の計上がなく、為替差損が計上されています。また持分法による投資損失が減少しました
- 神戸サイエンスパークセンター（原薬工場）の建設費用に係る補助金の確定が翌期にずれ込み、想定していた特別利益が当期に計上されませんでした

まず、売上高は330億7,200万円、営業利益がマイナス66億5,000万円、当期純利益がマイナス47億5,900万円という結果でございました。いずれも前年同期比で減収減益という結果でございます。

この主な要因としましては、予定しておりましたライセンス契約が、この期中に締結には至らなかったことに加えまして、製造関係の資材および治験薬等の在庫を精査しまして、今後の使用予定がないものについて損失を計上したことです。売上高は先ほど申し上げましたように330億7,200万円で、この内訳については次のスライドでご説明します。

売上原価113億3,300万円、この中に先ほど申し上げました製造関係の資材の損失としまして、19.5億円が廃棄損として含まれております。差し引きまして、売上総利益は217億3,800万円でございます。

販売費及び一般管理費でございますが、合計しまして283億円、うち研究開発費を除きました販売・一般管理費が129億円でございます。こちらは前年に比べまして、4.7億円の増加ということですが、また研究開発費につきましては、154億円の計上でございます。前年に比べまして42億円

サポート

日本 050-5212-7790
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com

の増加でございますが、このうち 10.6 億円、この中に先ほど申し上げました治験薬等の廃棄が含まれておりますので、実質的にはそれを差し引きました約 144 億円が研究開発費です。

これらを差し引きまして、営業利益は先ほど申し上げましたようにマイナス 66 億円、営業外収益がプラス 2 億 6,000 万円、営業外費用としまして 10 億 8,800 万円でございます。こちらにつきましては去年との差が若干出ておりますけれども、これにつきましては今期、為替差損の計上があったということでございます。

またトピックスとしましては、持分法による投資損失が減少したということでございます。こちらは Mycenax という、台湾の CDMO の株を保有しております。この一部売却をして、持分法適用対象から外れたことがございました。

経常利益はマイナス 74 億円でございます。その後、特別利益、特別損失がございまして、税金を差し引きまして、当期純利益は 47 億円ございました。

一つトピックスとしまして、右側の補足説明の一番下に書いてございますように、神戸サイエンスパークセンターの原薬工場の建設費用に係る補助金の確定が、この期から翌期にずれ込みまして、想定しておりました特別利益がこの期には計上されなかったということが、一つ特記事項としてございます。

サポート

日本 050-5212-7790
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com

売上高内訳（連結）

（単位：百万円）

連結	2024年3月期	2025年3月期		
	実績	実績	前年同期比	
			増減額	増減率
グロウジェクト®	17,913	18,098	+184	+1.0%
イズカーゴ®※	5,171	5,718	+547	+10.6%
テムセル®HS注	3,236	2,904	△331	△10.2%
腎性貧血治療薬	4,652	3,784	△868	△18.7%
エポエチンアルファ BS注「JCR」	1,994	1,690	△303	△15.2%
ダルベポエチン アルファ BS注「JCR」	2,658	2,093	△564	△21.2%
アガルシダーゼ ベータ BS点滴静注「JCR」	1,661	1,149	△512	△30.8%
医薬品合計	32,636	31,655	△981	△3.0%
契約金収入	7,413	517	△6,896	△93.0%
その他※	2,820	898	△1,922	△68.1%
売上高合計	42,871	33,072	△9,799	△22.9%

※イズカーゴの売上高のうちNPSプログラムによるものは「その他」に含む

売上高内訳に関する補足説明

- グロウジェクト®の売上高は、2024年4月に薬価改定があったものの、販売数量が増加したことにより増加しました
- イズカーゴ®の売上高は前年同期比10.6%増加し、好調に推移しました
- テムセル®の売上高は競合環境の変化により前年同期比10.2%減となりましたが、計画は達成しました
- 腎性貧血治療薬は、販売先であるキッセイ薬品工業株式会社への供給計画に準じた売上高となりました
- アガルシダーゼ ベータBS点滴静注「JCR」については、販売先である住友ファーマ株式会社への供給計画に準じた売上高となりました
- 契約金収入は予定していたライセンス契約が当期中の締結には至らなかったことなどにより、期初想定を下回る着地となりました
- その他の売上高減少は受託製造終了によるものです

3

こちらは、製品別の売上の内訳でございます。

まずグロウジェクト、約181億円の売上で前年比プラス1%、1億8,400万円のプラスでございました。こちらは薬価改定がございましたが、販売数量が増加したということで、売上高自体増加をしまして、またシェアにつきましても、のちほどAppendixをご覧くださいけれども、41%台のシェアを維持して、安定したシェアの推移でございます。

次にイズカーゴですが、こちらは57億円の売上で前年比プラスの5億4,700万円と、10%を超える売上増を達成しております。こちらにつきましても、投与されております患者さんの増加が、純増で6例あったということでございます。こちらにつきましてもAppendixをお示しておりますので、のちほどご参照いただければと思います。

テムセルにつきましても29億円の売上で、こちらは前年比10.2%の減でございましたが、これは競合環境の変化が要因でございまして、ただ、当初立てました計画は達成したということでございます。

その下の腎性貧血治療薬およびアガルシダーゼ ベータ、この腎性貧血治療薬の2品目およびアガルシダーゼ ベータにつきましても、それぞれキッセイさんおよび住友ファーマさんで販売をして

サポート

日本 050-5212-7790
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com

いただいております。ですから、販売先とのすり合わせをしております出荷計画、販売先の販売計画に合わせまして、供給計画に準じた売上高といずれもなっております。

医薬品合計としましては、売上高 316 億 5,500 万円、前年比ではマイナス 9 億 8,100 万円ございました。

また、契約金収入は 5 億 1,700 万円でございます、前年比で 68 億円のマイナスでございます。これは冒頭申し上げましたように、予定しておりましたライセンス契約が当期中の締結には至らなかったということで、期首の予想を大きく下回る着地になりました。

その他の売上高の減少は、前年度ございました製造受託の分が減少したということでございます。売上合計は 330 億 7,200 万円ございました。

予想に行く前に、一つスライドを戻っていただきまして、決算の概要で先ほど言い忘れましたが、ご案内のとおり 3 月 27 日に業績予想の修正を発表しております。そのときに比べまして、その差について若干ご説明したいと思います。

売上高については、そのときの想定にプラス 7,200 万円ですので予想どおりでございますが、営業利益が 6 億 5,000 万円、マイナスが大きくなっております。これにつきましては、特に開発費につきまして、経費の計上時期が元々想定していたよりも早まったものが多かったということでございまして、このことが大きな要因となっております。

また経常利益につきまして、こちらも想定よりもマイナス 7 億 7,700 万円、マイナスが大きくなっておりますが、こちらにつきましては円高による為替差損が要因でございます。差異につきましては、以上でございます。

サポート

日本 050-5212-7790
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com

財務状態（連結）

(単位：百万円)

	2024年 3月末	2025年 3月末	増減 ・ 主な増減項目		2024年 3月末	2025年 3月末	増減 ・ 主な増減項目
流動資産	57,581	51,056	計 △6,524 ・ 現金及び預金 △5,559 ・ 売掛金及び契約資産 △2,698 ・ 棚卸資産 +822	流動負債	30,135	43,988	計 +13,852 ・ 短期借入金 +17,105 ・ 未払法人税等 △1,620
固定資産	44,644	53,798	計 +9,154 ・ 有形固定資産 +7,369 ・ 繰延税金資産 +1,697	固定負債	15,615	13,431	計 △2,183 ・ 長期借入金 △2,300
合計	102,226	104,855	2,629	負債合計	45,750	57,420	計 +11,669
				純資産合計	56,475	47,435	計 △9,040 ・ 当期純損失 △4,759 ・ 自己株式 △2,103
合計	102,226	104,855	2,629	合計	102,226	104,855	2,629

財務状態に関する補足説明

- ・有形固定資産の増加は、神戸サイエンスパークセンター新製剤工場の建設開始によるものです
- ・短期借入金の増加は、新製剤工場の建設、運転資金のための資金調達および長期借入金からの振り替えによるものです

	2024年 3月末	2025年 3月末
自己資本比率	54.2%	44.8%

4

それでは、財務状況でございます。

この終わった期、総資産が 1,048 億円でございます、そのうち純資産が 474 億円でございます。自己資本比率、右下にありますように 44.8%でございます。純資産関係で申し上げますと、今期は自己株の取得がございました。そのことが一つ、特記事項としてございます。

また左側の固定資産、特に有形固定資産の増加が大きくなっておりますが、これは神戸サイエンスパークセンターの新製剤工場の着工をしたことのお知らせしておりますが、こちらの建設開始によるものでございます。

また右側、流動負債短期借入金が増加をしておりますけれども、これにつきましては今申し上げました新製剤工場の建設、また運転資金のための資金調達および長期借入金からの振り替えによるものでございます。

サポート

日本 050-5212-7790
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com

【2026年3月期 予想】 連結決算概要

(単位：百万円)

連結	2025年 3月期	2026年3月期		
	実績	予想	前年同期比	
			増減額	増減率
売上高	33,072	37,800	+4,727	+14.3%
売上原価	11,333	8,200	△3,133	△27.6%
売上総利益	21,738	29,600	+7,861	+36.2%
販売費及び一般管理費	28,389	27,000	△1,389	△4.9%
販売・一般管理費	12,958	12,000	△958	△7.4%
研究開発費	15,431	15,000	△431	△2.8%
営業利益	△6,650	2,600	+9,250	-
経常利益	△7,477	2,400	+9,877	-
親会社株主に帰属する 当期純利益	△4,759	3,000	+7,759	-
(ご参考) 共同開発先による負担控除前の研究開発費	16,994	17,100	+105	+0.6%

連結決算概要（予想）に関する補足説明

- 売上高は、イズカーゴの売上増や契約金収入の増加を見込むため、前期と比較し増加する見込みです
- 売上原価は、前期に製造関係の資材の廃棄損が発生したため、前期比では減少を見込みます
- 販売・一般管理費は、効率的な事業遂行などにより前期比で減少する見込みです。また、研究開発費についてもグローバル臨床試験の進捗があるもの、前期には治験薬等の廃棄損が発生しているため、前期比では減少する見込みです
- 営業利益は、契約金収入の増加を主因として、前期比で増加する見込みです
- 神戸サイエンスパークセンター（原薬工場）の補助金の金額確定に伴う圧縮記帳により、前期以前に計上した減価償却費相当分の特別利益が発生する見込みです

対売上高	2025年 3月期	2026年 3月期	増減
売上原価率	34.3%	21.7%	△12.6%
売上原価率（契約金除く）	34.8%	25.4%	△9.4%
研究開発費率	46.7%	39.7%	△7.0%
営業利益率	△20.1%	6.9%	+27.0%

5

次に、今期の予想についてご説明いたします。

まず、売上高につきましては378億円、営業利益が26億円、当期純利益30億円という予想でございます。

まず売上高につきましては、この後詳細をご説明しますが、イズカーゴの売上増あるいは契約金収入の増加を見込んでおりまして、前年比プラス47億円の計画でございます。売上原価につきましては、前期計上しました製造関係の資材の廃棄損、これが発生しませんので前期比では大きく減少を見込んでおります。売上原価率につきましても、右下の表、特に契約金を除く売上原価率、これは25.4%ということで大幅な減少を想定しております。売上総利益は296億円。

一方、販管費につきましては、まず研究開発費を除きました販売・一般管理費について120億円でございます。こちらは効率的な事業遂行等によりまして、前期比で減少する見込みでございます。また研究開発費につきましても、こちらも先ほど申し上げました治験薬の廃棄等の損失は、今期はないわけですが、一方でグローバルの臨床試験の進捗がありまして、全体では前期比では減少するということがございますが、実質ベースでは増加でございます。これは繰り返しになりますが、臨床試験の進捗によるものでございます。その結果、営業利益は26億円でございます。

サポート

日本 050-5212-7790
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com

当期純利益は 30 億円という想定でございますが、これは補足説明の一番下にあります神戸サイエンスパークセンター原薬工場の補助金の金額確定、今期には金額確定できると想定しておりまして、それに伴う圧縮記帳によりまして、前期以前に計上した減価償却費相当分の特別利益の計上を見込んでおります。

【2026年3月期 予想】 売上高内訳 (連結)

Reach Beyond, Together
一緒に、その先へ



連結	2025年3月期		2026年3月期	
	実績	予想	前年実績比	
			増減額	増減率
グロウジェクト®	18,098	17,800	△298	△1.6%
イズカーゴ®*	5,718	6,400	+681	+11.9%
テムセル®HS注	2,904	2,700	△204	△7.0%
腎性貧血治療薬	3,784	3,100	△684	△18.1%
エポエチンアルファ BS注「JCR」	1,690	800	△890	△52.7%
ダルベポエチンアルファ BS注「JCR」	2,093	2,300	+206	+9.9%
アガルシダーゼ ベータ BS点滴静注「JCR」	1,149	1,100	△49	△4.3%
医薬品合計	31,655	31,100	△555	△1.8%
契約金収入	517	5,500	+4,982	+963.2%
その他*	898	1,200	+301	+33.5%
売上高合計	33,072	37,800	+4,727	+14.3%

(単位：百万円)

*イズカーゴの売上高のうちNPSプログラムによるものは「その他」に含む

売上高内訳 (予想) に関する補足説明

- ・ グロウジェクト®は電動デバイスの有用性の訴求や、潜在患者や新規患者への積極的なアプローチなどにより販売数量の拡大を目指しますが、薬価改定の影響を受け、売上高の減少を見込みます
- ・ イズカーゴ®は2023年4月より開始した領域専任制によるイズカーゴ®専任MRの配置や、住友ファーマ株式会社との共同プロモーションにより、継続して売上増加を見込みます
- ・ テムセル®は競合環境の変化により、売上減少を見込んでいます
- ・ 腎性貧血治療薬とアガルシダーゼベータBS点滴静注「JCR」は販売先への供給計画に準じた売上高を見込んでいます
- ・ 契約金収入はライセンス契約の締結を予定していることなどにより、前期を上回る水準を見込んでいます

6

これは、私の最後のスライドでございます。

製品別に申し上げますと、まずグロウジェクトですが、売上は 178 億円です。金額としましては 1.6%のマイナスでございますが、薬価改定が主力の 12mg でマイナス 3.6%ございますので、数量ベースでは約 2%の増加と見込んでいます。またイズカーゴにつきましては、今期も 10%以上の増加を想定しておりまして、売上は 64 億円を想定しております。テムセルにつきましては、先ほど申し上げましたような競合環境の変化で、約 2 億円の売上の減少を見込んでおります。以下エポエチンアルファ、ダルベポエチンアルファ、アガルシダーゼベータにつきましては、販売を他社に委託している製品でございますので、それぞれの会社さんとの間での供給計画に基づく売上の想定でございます。

サポート

日本 050-5212-7790
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com



Cohort B ですが、これは軽症型の患者 20 名を対象としておりますが、こちらも一対一で JR-141 群と標準治療群に無作為割付されています。こちらは良い進捗でありまして、今 12 カ国以上において 28 のサイトをオープンしております。Cohort B の組み入れですが、こちらは昨年全部組み入れすることができ、またリクルートメント、Cohort A におきましても、かなり進行しております。大体 95%以上の患者の登録が進んでおりまして、素晴らしいポジションにいると思います。

前にお話をいたしましたタイムラインどおりに進んでおり、そして組み入れが完了する上で、極めて有利な立場にあると思います。そしてまた、当局と緊密に連携を続け、できるだけ早く、例えばアメリカあるいはヨーロッパで申請をしたいと思っております。また FDA との相談は、2025 年 6 月に予定しております。

ほかのパイプラインにおいても良い進捗を経験しております。今現在治療法がない疾患に関しましても着実に開発が進んでおります。

その他のライソゾーム病治療薬



いまだ治療薬のない希少疾病に対し、臨床開発の着実な進捗を達成

JR-441

血液脳関門通過型 遺伝子組換えヘパランN-スルファターゼ
適応症：ムコ多糖症IIIA型

- 2023年10月 臨床第II/III相試験を開始（ドイツ）
 - 目標症例数の登録を完了
- 2024年10月 臨床第I相試験を開始（日本）
 - 目標症例数の登録を完了

JR-446

血液脳関門通過型 遺伝子組換えα-N-アセチルグルコサミニダーゼ
適応症：ムコ多糖症IIIB型

- 2024年12月 臨床第II/III相試験を開始（日本）
- 独立データモニタリング委員会による初回安全性レビューが完了
 - 現時点で安全性に懸念はなく、治験継続可との判断

9

一つが JR-441 です。MPS IIIA 型の治療を目的とした血液脳関門通過型酵素補充療法です。2023 年 10 月、臨床第 I/II 相試験をドイツで開始し、成功裏に、全ての目標症例数の登録を完了しています。また 2024 年 10 月、臨床第 I 相試験を日本で開始しています。患者の組み入れ登録も完了

サポート

日本 050-5212-7790
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com



しています。スケジュールどおりですので、2025年度の下期に、これについての結果を報告することができます。

JR-446 ですが、MPS III B 型の治療を目的とした血液脳関門通過型酵素補充療法です。こちらにおきましても、第 I/II 相試験を日本で 2024 年 12 月に開始しております。また、First patient（第 1 例目となる被験者）へは成功裏に投与されまして、初回、安全性のデータが独立データモニタリング委員会によりレビューされ、そして試験はグリーンライトを得ました。すなわち安全性に懸念がないので、治験継続可の判断をいただきました。

また、こちらの試験に関しましては、成功していると申し上げたいと思います。リクルートする患者を同定しておりますし、また既に登録完了までの患者候補がおりますことを申し上げたいと思います。

成長ホルモン製剤

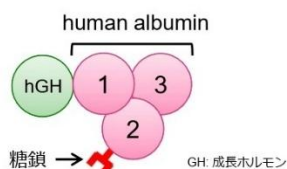
Reach Beyond, Together
一緒に、その先へ



JR-142

遺伝子組換え長時間作用型成長ホルモン
適応症：骨端線閉鎖を伴わない成長ホルモン分泌不全性低身長症

改変型アルブミン融合GH



血中滞留性の向上のため、糖鎖を付加した改変型アルブミンとの融合タンパクを自社開発

臨床第III相試験 概要



概要	
目的	・ グロウジェクトに対するJR-142の非劣性の検証、並びに有効性および安全性の比較評価
評価項目	・ 52週後の暦年齢相当身長SDSの初回投与時からの変化量（Δ暦年齢相当身長SDS）
目標症例数	・ 54名

2024年12月 第III相試験にて最初の症例への投与を開始

10

成長ホルモン製剤についてのフォローアップです。

JR-142 は、長時間作用型成長ホルモン製剤です。こちらは成長ホルモン分泌不全性低身長症のもので、週 1 回の投与です。連日投与ではありません。改変型アルブミン融合成長ホルモンです。第

サポート

日本 050-5212-7790
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com



III相試験のデザインでは2群、JR-142 投与群があります。週1回の投与です。二つの用量を使っています。0.75mg/kg/週と0.5mg/kg/週です。

そして対照群はグロウジェクトです。こちらは連日投与です。0.175mg/kg/週の用量です。

全体的な目的としては、グロウジェクトに対するJR-142の非劣性の検証、そして有効性、安全性の比較評価をすることになります。そして、患者さんの身長を測定していきます。これが評価項目です。目標症例数は、合計で54例となります。

この試験を成功裏に開始しまして、最初の症例への投与を2024年12月に達成しました。登録は現在進行中です。

開発パイプライン

Reach Beyond, Together
一緒に、その先へ



開発番号	適応症	開発段階				備考
		前臨床	Phase 1	Phase 2	Phase 3	
JR-141	ムコ多糖症II型（ハンター症候群）	Global Ph3				<ul style="list-style-type: none"> 2025年度 第3四半期：登録完了予定 ～2027年度 米国・欧州・ブラジルでの承認予定
JR-142	骨端線閉鎖を伴わない成長ホルモン分泌不全性低身長症	Ph3（日本）				<ul style="list-style-type: none"> 2024年12月 Ph3初回投与
JR-171	ムコ多糖症I型（ハーラー症候群 等）	Global Ph1/2 completed				<ul style="list-style-type: none"> 継続試験が進行中 導出に向けて交渉中
JR-441	ムコ多糖症IIIA型（サンフィリップ症候群A型）	Ph1/2（ドイツ）				<ul style="list-style-type: none"> <Ph1/2> 目標症例数の登録完了 2025年度 下半期 データ（1年）の解析完了 <Ph1> 目標症例数の登録完了
		Ph1（日本）				
JR-446	ムコ多糖症IIIB型（サンフィリップ症候群B型）	Ph1/2（日本）				<ul style="list-style-type: none"> 2024年12月 Ph1/2初回投与 メディバルホールディングスに導出
JR-471	フコシドーシス					<ul style="list-style-type: none"> メディバルホールディングスに導出

11

そして、いろいろな進捗が臨床開発のパイプラインで見られております。

JR-141の臨床試験におけるリクルートメント活動で非常に重要な進捗が見られております。また現在、いい位置付けにありまして、2025年第3四半期までに患者登録が完了する見込みで、コミュニケーションができると思っております。

サポート

日本 050-5212-7790
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com



また、JR-142 の試験も開始しています。最初の患者さんの投与が、2024 年 12 月に行われました。

また、ポートフォリオには、JR-171 があります。こちらは MPS I 型の血液脳関門通過型酵素補充療法です。継続試験が進行中です。導出に向けての交渉を行っており、強化しているところです。また、MPS IIIA のアセットも、患者登録については問題なく完了しております。安全性の問題も今までありません。ですので、治験を続けることになっております。そして日本の試験における患者登録が完了しております。

JR-446、こちらは MPS IIIB 型治療酵素製剤です。メディカルホールディングスとパートナーシップを組んでいます。マイルストーンを達成していきまして、初回投与が 2024 年末に達成されております。

またフコシドーシスについては、この治療薬を、治療を受けられていない患者集団に届けようとしています。こちらもメディカルホールディングスと連携して行っております。

ありがとうございました。

菌田：菌田でございます。ここからは、私より研究活動の進捗についてお話ししたいと思います。

今日は二つ、トピックを準備しております。一つはライソゾーム病の酵素補充療法について、もう一つは遺伝子治療です。アデノ随伴ウイルスの遺伝子治療について。この二つをお話ししたいと思います。

サポート

日本 050-5212-7790
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com



開発番号	適応症	開発段階				備考
		前臨床	Phase 1	Phase 2	Phase 3	
JR-141	ムコ多糖症II型 (ハンター症候群)	Global Ph3				<ul style="list-style-type: none"> 2025年度 第3四半期：登録完了予定 ～2027年度 米国・欧州・ブラジルでの承認予定
JR-142	骨端線閉鎖を伴わない成長ホルモン分泌不全性低身長症	Ph3 (日本)				<ul style="list-style-type: none"> 2024年12月 Ph3初回投与
JR-171	ムコ多糖症I型 (ハーラー症候群 等)	Global Ph1/2 completed				<ul style="list-style-type: none"> 継続試験が進行中 導出に向けて交渉中
JR-441	ムコ多糖症III A型 (サンフィリップ症候群A型)	Ph1/2 (ドイツ)				<ul style="list-style-type: none"> <Ph1/2> 目標症例数の登録完了 2025年度 下半期 データ (1年) の解析完了 <Ph1> 目標症例数の登録完了
		Ph1 (日本)				
JR-446	ムコ多糖症III B型 (サンフィリップ症候群B型)	Ph1/2 (日本)				<ul style="list-style-type: none"> 2024年12月 Ph1/2初回投与 メディバルホールディングスに導出
JR-471	フコシドーシス					<ul style="list-style-type: none"> メディバルホールディングスに導出
JR-479	GM2ガングリオシドーシス (テイ・サックス病、サンドホフ病)					-

まず一つ目です。こちらは、開発パイプラインを示しております。

先ほどもアン・ベシェから説明をしましたがけれども、その一番下、これはまだ非臨床フェーズになりますけれども、JR-479 という品目があります。これはGM2 ガングリオシドーシスという病気を対象にしていまして、この疾患はライソゾーム病の一つになるのですが、ライソゾーム病の中でも、特に中枢神経系に症状が広く出て、かなりシビアな病態を示す病気だということでも知られています。そして今現在、有効な治療法がない、非常に重篤な疾患だということでも、これに積極的に取り組んでいるということです。

サポート

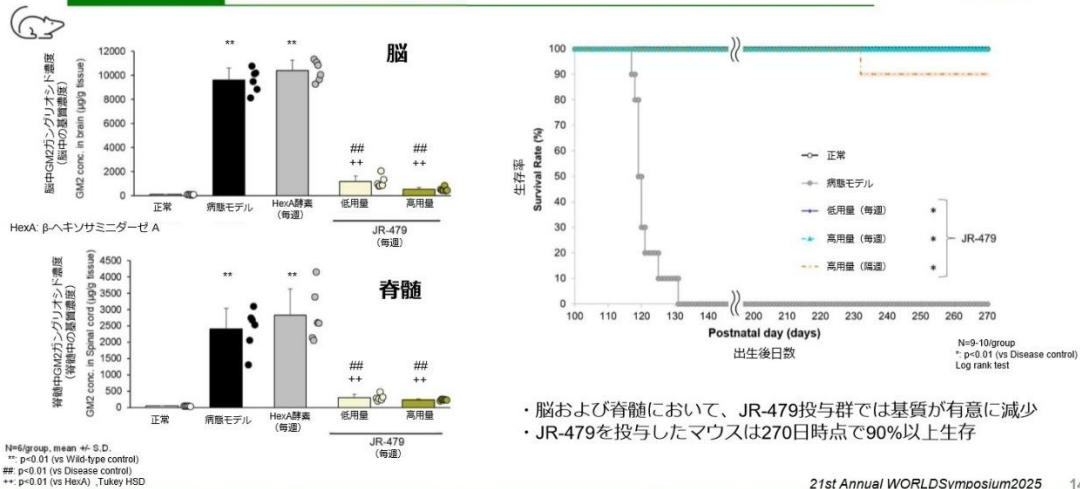
日本 050-5212-7790
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com

GM2ガングリオシドーシスモデルマウスを用いた評価

JR-479

血液脳関門通過型遺伝子組換えβ-ヘキササミンダーゼ A
適応症：GM2ガングリオシドーシス（テイ・サックス病、サンドホフ病）

酵素補充療法



- ・脳および脊髄において、JR-479投与群では基質が有意に減少
- ・JR-479を投与したマウスは270日時時点で90%以上生存

今日は、この GM2 ガングリオシドーシスの治療薬候補、JR-479 の非臨床、マウスの試験の結果について説明したいと思います。

この1枚のスライドになります。

JR-479、先ほどもお話ししましたが、これは血液脳関門通過型、J-Brain Cargo を適用した酵素製剤になります。まず左側に棒グラフがありますが、これはモデルマウスに JR-479 を投与して、脳もしくは脊髄に蓄積している有害物質、この場合は GM2 というものになるのですが、それがどれくらい減少しているのかというのを示しています。

グラフの一番左が正常マウスですので、バーが低いです。つまり、脳もしくは脊髄に有害物質が溜まっていないということです。その隣、病態モデル、これが病気のモデルのマウスになります。黒のバーで示していますが、そこに示されるだけ GM2 が蓄積する。血液脳関門を通過しない、脳移行性のない酵素を投与しても、グレーのバーになりますが、脳もしくは脊髄での蓄積物質は減少しません。

一方で JR-479、右側のバーですね、その2本、低用量と高用量、二つの用量の結果を示しています。どちらにおいても、脳と脊髄において非常に大きな減少が見られるかと思えます。脳もしくは

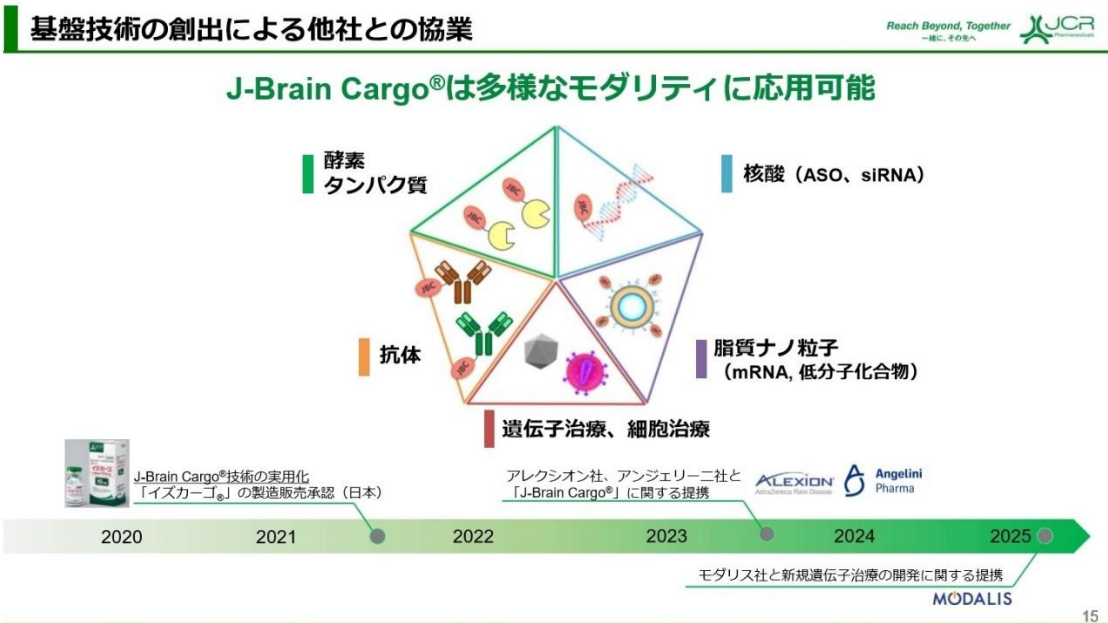
サポート

日本 050-5212-7790
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com

脊髄で大きく蓄積物質が減少したモデルマウスで、右側になりますけれども、生存率を見ています。

このマウスは、先ほどもお話したようにライソゾーム病の中でもかなりシビアな病気です。モデルマウスでも、患者さんと同じように非常にシビアな病態を示します。グレーのバーになりますが、無治療ですと、そこに示してあるように130日、140日ぐらい、これは生後になりますが、ほとんどのマウスが死んでしまう。それに対して治療群、そこではブルーもしくはオレンジで示していますが、ラインを見ていただくとわかりますけれども、非常に高い生存率を維持しています。もちろん正常マウスは100%生存していますので、このブルーのラインの後ろに隠れているわけですが、それと同じように高い生存率を酵素補充療法によって維持できていることになります。

現在、有効な治療法がない中で、モデルマウスではありますけれども、良い結果を得られていると思っています。これを早く、JR-141、441、446といったものに続いて、臨床フェーズに上げていきたいと考えています。




サポート


日本 050-5212-7790
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com



今、酵素製剤についてのお話をしましたけれども、J-Brain Cargo は基盤技術ですので、酵素はもちろん、そのほかのいろいろなモダリティに適用できます。この中で、一番今まで注力をしてきたというか、力を注いできていたのが遺伝子治療になります。

それ以外でも、抗体医薬であったり、核酸、ここではナノ粒子を書いています。そういったものへの適用可能性を示して、それらを基に他社さんとのコラボレーションは進んでいますし、今後も積極的に進めていきたいと思っています。

JUST-AAV : 様々な疾患に応用可能な新たなプラットフォーム技術 Reach Beyond, Together 



AAV: アデノ随伴ウイルス
JBC: J-Brain Cargo®

JCR
JCRによる
Ultimate Destination of Organ
標的の臓器に輸送し
Safeguarding against off-target delivery
標的外の臓器への輸送を防止する
Transformative Technology
革新的な技術

**目的とする組織・臓器への指向性を有し、かつ
特定の組織・臓器への移行性を低減したAAV**

16

今日は遺伝子治療、アデノ随伴ウイルス、AAV のことについてお話したいと思います。

これまでも、新しいプラットフォーム技術として、J-Brain Cargo を適用したアデノ随伴ウイルスの話をしてきました。今回は、この技術に新しく名前をつけました。命名しましたというお話です。

この右側に英語がつつらと書いてありますが、これが新しいプラットフォーム技術の特徴が書いてあります。その頭文字を取って、JUST-AAV という名前を付けています。これは目的とする組織、今ですと脳とか筋肉とか、そういった組織に指向性を持たせて、かつ安全性の観点であまり局在してほしくない臓器、肝臓とか、そういったところへの蓄積を低減させる、行くところには行っ

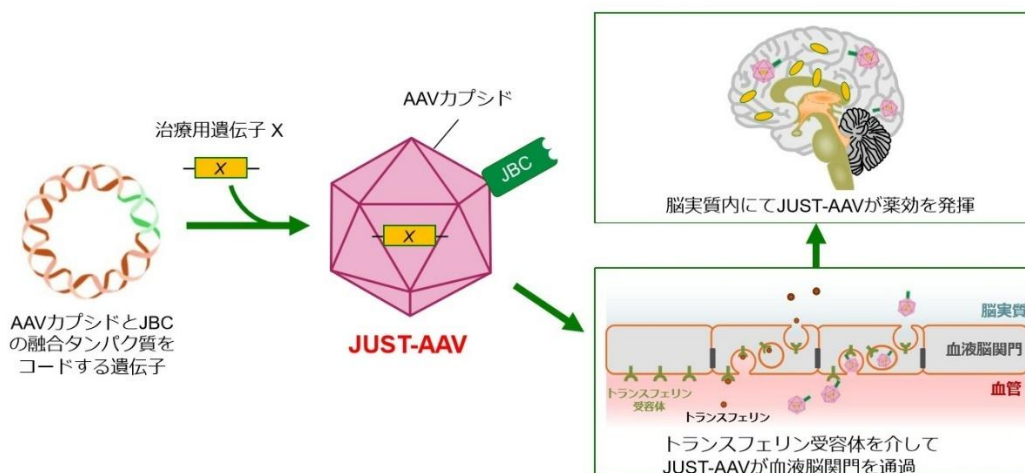
サポート

日本 050-5212-7790
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com

て、行ってほしくないところには行かせない、そういった技術を盛り込んだ AAV、これを JUST-AAV と名付けました。

JUST-AAVの作用機序（脳を標的とする場合）

Reach Beyond, Together
一緒に、その先へ



17

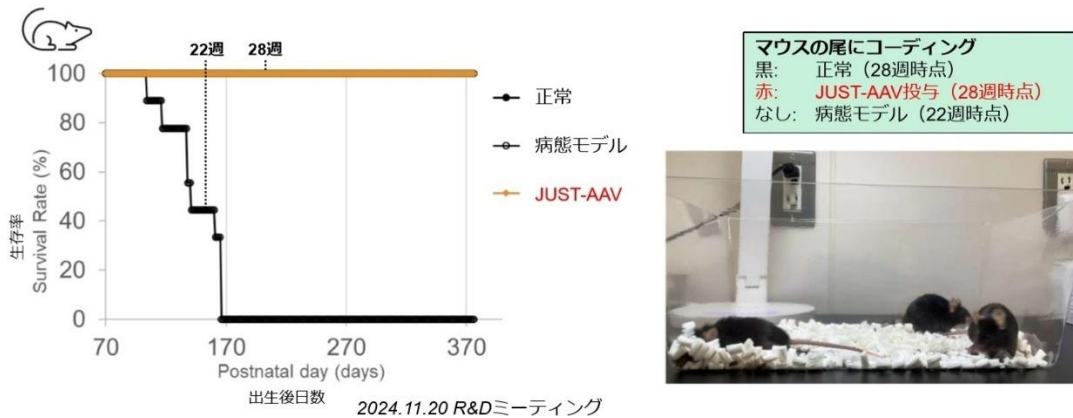
その中で、例えば脳を標的とした場合、JUST-AAV の中でどういう作用機序かというのが、ここに書いてあります。

この AAV の真ん中のピンクの絵が、AAV のカプシドを示しています。それに組織、ターゲッティングができるタグ、この場合だと緑のタグ、脳へのタグをつけています。これはもちろん模式図ですけれども、こういったような AAV をつくり出して、それを投与することで、このタグが目的の組織に誘導していくということです。また、このカプシド自体に細工をして、肝臓とか行ってほしくない組織へのディストリビューションを低減して、低減することによってより目的の組織にも行かせると、そういったコンセプトになります。

サポート

日本 050-5212-7790
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com

SCRIPTS
Asia's Meetings, Globally



JUST-AAVを用いた遺伝子治療により、正常マウスと同様に370日以上生存

18

新しい JUST-AAV を用いた遺伝子治療です。

今回もマウスの結果になりますが、そのデータの一つ、皆さんにお示ししたいと思います。今回も、これはライソゾーム病の一種であるセロイドリポフスチン症2型という病気ですが、そのモデルマウスを用いて生存率を見ています。

左側が、その生存率を示したグラフになります。黒が病態モデルです。黒いラインで示しています。170日で、全てのマウスが死んでしまっています。このマウスに、JUST-AAV を1回静脈内に投与して、それでどれだけの生存率が変わるのかというのを、この試験では見ています。このオレンジのラインで示してありますように、JUST-AAV を単回で投与したマウスにおいては、正常マウスと同じような生存を示しました。

実際にマウスがどういう behavior を取っているのかというところを、右側の動画で示したいと思います（動画を再生）。マウスの尻尾にコーディングをしているのですが、黒く塗ってあるのが正常のモデルマウスです。何もコーディングしてないのが、病態のモデルです。ブルブルと震えているのが、病態のモデルです。非常にノーマルではありません。行動をぱっと見ても、行動が全く異なるのがわかるわけです。そのマウスに JUST-AAV を投与したものの、尻尾が赤色にマークされて

サポート

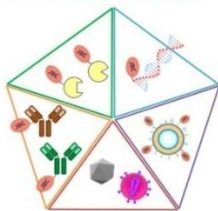
日本 050-5212-7790
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com

いるものになりますが、それは正常マウスと見分けがつかないレベルに行動が改善をされていることとなります。それを反映して、生存率も正常マウスと同等レベルまで戻っているということです。

独自の技術で未来を拓く

基盤技術のライセンスアウトを拡充し、
希少疾病にとどまらず画期的な治療薬を創製する

J-Brain Cargo®



多様なモダリティに応用可能な
血液脳関門通過技術

JUST-AAV



標的とする組織への送達性を高め
肝臓への集積性を低減させたAAV

ライソゾーム病

神経変性疾患

筋疾患

神経炎症性疾患

神経腫瘍

お示ししたのは、酵素製剤と遺伝子治療に J-Brain Cargo の技術を応用した例になります。

このように基盤技術を整備して、新しくつくっていて、希少疾患のところでのアセットをつくり出して開発をしてということをやっていますが、この技術そのもののライセンスも継続して、他社さんとのコラボを積極的に進めていますし、今後もそうしたいと思っています。

これまでは J-Brain Cargo でいろいろなモダリティに使えますよという話だったのですが、そこに一つ、AAV に関して JUST-AAV と名付けましたが、新しくこういった技術が加わって、より自社の創薬もそうですし、他社とのコラボにもこれらが寄与して、われわれはライソゾーム病もしくは希少疾患をターゲットに研究開発をやっていますけれども、それ以外のより大きな疾患領域に関しては、この基盤技術を用いたライセンスもしくは協業を通して、そういった病気、患者さん、そのご家族に貢献をしていきたいと考えています。

私からは以上です。

サポート

日本 050-5212-7790
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com

司会：ご清聴ありがとうございました。

サポート

日本 050-5212-7790

フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com



質疑応答

司会 [M]：それでは、これより質疑応答に移ります。なお、ご質問は一问一答形式にて、お一人につき1回2問までとさせていただきますが、何回挙手いただいても構いません。

それでは、アナリストの皆様、メディアの皆様からの質疑応答を開始いたします。初めに、山口様、お願いいたします。

山口 [Q]：ありがとうございます。シティグループ証券の山口です。よろしくお願いいたします。一つ目の質問は、ページ8のJR-141のグローバル開発のところですか。2025年6月までにFDAとの相談を実施予定とおっしゃっていただきましたが、これは何を目的とした会議なのかということと、昨年あたりから注目されていた加速申請、加速承認といったものが可能になるのかならないのか。そういう話なのかということも含めまして、ご紹介いただけますでしょうか。これが1問目です。

ベシェ [A]*：もちろん実際のこのようなミーティングの内容は、全体的な機密保持、戦略的な理由から機密になっております。しかしながらJCRの目的としては、ベストでより早いアメリカでの承認に向けた方法を特定したいと思います。

山口 [Q]：2点目が今期の契約金収入のご前提ですが、前期の場合はJR-171と、あと提携先の2社がうまくいなくて、結局両方とも出なかったということで2回にわたる下方修正となりました。今回については、JR-171といった製品部分は入っているのかどうか。提携先からのずれ込みは、多分前期から起きると思うのですが、それだけが入っているのか。ここが結果的に言うと、結構業績のボラティリティを出してしまっていると思いますので、そのご前提と確度とといいますか、それについて教えてください。

伊藤 [A]：それでは、伊藤より回答いたします。まず今回の契約金収入の前提としましては、今おっしゃったようにJR-171とか、そういった製品の導出の前提は置いておりません。一方で、前期契約予定であったもの、これが今期にずれ込んでおりますので、その契約金、一時金収入については織り込んでおります。また、先ほど申し上げましたように、既に進行中の共同研究等によりマイルストーン収入についても織り込んでおります。それらを織り込みまして、お示した数字でございます。

サポート

日本 050-5212-7790
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com

どの程度確からしいのかということですが、前期もご指摘のとおり、2度下方修正をしましてご迷惑をおかけしておりますが、そういった意味では今期については、前期も堅い数字と申し上げておりましたけれども、今期については十分達成可能な数字と考えております。下方修正を続けるようなことのないように思いまして、この数字を設定したということでございます。

山口 [Q]：ありがとうございます。1点軽く伺いたいのですが、JR-171、JR-141 を1個1個導出するとか、まとめて導出するとか、今回業績には入っていないとはおっしゃいましたが、導出活動については何か近況をアップデートできることがありましたら教えてください。

伊藤 [A]：導出活動につきましては引き続き継続をしております、どちらのアセットにつきましても興味を持っていただいている会社さんと話し合いをしております。前にもそういうお話を申し上げましたけれども、JR-171、JR-141 双方について興味を持っていただいている会社さんもございます。これにつきましては、進展があって発表できる段階になりましたら、またお知らせしたいと考えております。ありがとうございます。

山口 [M]：ありがとうございました。

司会 [M]：ありがとうございました。それでは続いてのご質問、酒井様、お願いいたします。

酒井 [Q]：UBS の酒井です。JR-141 で確認ですが、これはアメリカ人のデータといたしますか、これは FDA と相談する上では当然必須だと思うのですが、現在どのような状況になっているのか、その辺を確認させていただけますか。

ベシェ [A]*：JR-141 に関してですが、もちろんアメリカ人のデータだけではなく、グローバルの共同試験ですのでグローバルの登録をアメリカで行いたいと思いますし、またヨーロッパの国でも申請したいと思います。昨年 FDA と何回か相談をいたしまして、この6月のFDAの相談は継続の相談となりまして、また開発計画の確認、また最も良い、また早い申請までの道筋を通ることができるようなための相談です。

酒井 [Q]*：チャレンジとしては、この患者数、症例数に関して、説得をするのにかなり大変だと思います。ただ、FDA が OK を出すと今現在も考えられていらっしゃいますか。

ベシェ [A]*：おっしゃるとおりです。JCR において大きなデータプールがありますので、もちろん進行中の第Ⅲ相試験のデータもありますが、しかしながら追加的な日本で完了しました試験、それからブラジルでの試験もあります。ですので、それを統合するということになります。というのは、もう何年か市場に出ているわけでありまして、ですので、広範なるデータプールがございまして、さらにわれわれのポジションを補強することができると思います。

サポート

日本 050-5212-7790
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com

酒井 [Q]：わかりました。ありがとうございます。

芦田会長が今回、後進に芦田さんと藺田さんにとのことですが、基本的にどちらにお聞きすればいいかわからないのですが、現在の路線、今、JCR の置かれた環境は決して楽な局面ではないと思います。この局面において、特にこれから何か変えていこうとか、藺田さんの場合には研究開発をずっとおやりになっていたもので、そのアセットという意味では隅の隅までご存知だと思うのですが、何か私たちに伝えていただけるメッセージは、現時点でございますか。

芦田透 [A]：ありがとうございます。芦田透でございます。現時点で私からお伝えできることは、これまで今日、冒頭現会長の芦田信のお話がありましたとおり、これまで本当に数年、指名・報酬委員会等でさまざまな議論がされたと聞いております。また、本日の取締役会での決議を受けまして、現時点で私個人的には本当にその決断を重く受け止めて、しっかりとこれから 2026 年 4 月に向けて、現会長、新社長と 3 人で相談をしながら、新しい体制がどのような形がいいのかということを経営チームとして考えて、十分議論をして準備をしていきたいと考えております。

藺田 [A]：藺田です。ご質問ありがとうございます。基本的にトップが代わったからといって、会社の方針がガラッと、やっていることが変わることはないと思います。希少疾患をベースに、今は医薬品の開発がなくて困っている患者さん、そのご家族の方々のために、新しい医薬品を開発していくという姿勢は維持したいと思っています。

ただ一方で、今言われたように、置かれている環境もしくは製薬全体の環境ということ考えたときに、どういうふうに持続可能に持っていくのだという、ここは非常に大きな課題だと認識しています。それが、もし希少疾患でないところにも手を伸ばして、持続可能性を維持した上で、それがあるからこそ希少疾患の開発ができるという結論に達した場合は、希少疾患ではないものを手がける可能性もあるかもしれませんし、今やっていることだけをやり続けていくという意味では、それだけではうまくいかないだろうとは思っています。

例えば技術一つをとってみても、10 年前、この技術でトップを走っていたわけですがけれども、すぐに他社が同じように追いかけてくるわけです。AAV も同じく、もう数年で同じような環境になるのではないかと思います。研究開発においては常に投資をして、新しい技術開発をしていく。これは今までと同じことですし、それは続けていきます。ただ、それをどう使うかという、ここに関しては今後いろいろと、今までよりも幅広くにオプションを考えながらやっていきたいと思っています。ご質問、ありがとうございます。

司会 [M]：ありがとうございました。それでは続いてのご質問、長尾様、お願いいたします。

サポート

日本

050-5212-7790

フリーダイヤル

0120-966-744

メールアドレス support@scriptasia.com



長尾[Q]：神戸新聞の長尾と申します。お世話になります。

まず1問目、芦田信会長兼社長が、今年で半世紀、創立から経つということですが、一代でここまで築かれたのはすごいなと思います。これまでを振り返って、現在までの飛躍に欠かせなかった岐路を、二つ、三つ挙げていただくとしたら、どんな感じなのかを伺いたいと思います。まず一つ目です。

芦田信 [A]：やはり社員、本当にベンチャーとして原料をつくることから始めたものですから、社員全員で一緒になって、働いてものをつくることを中心に始めました。これが第一です。

それから2番目は、その後何をしようか、どうしてこの会社を維持していこうかというところを考えたときに、やはりものをつくっていかないといけない。ウロキナーゼから始めて、そのほかの原料をつくろうということで、研究に重きを置いて、研究のためにお金を稼ぐということで、売上の30%以上をかけて研究をしてきました。

その結果として、ウロキナーゼ以外に上皮成長因子とか、カリジノゲナーゼ、それからインターフェロン・アルファ、そういうものが会社の中でできてきました。

次に3番目は、会社を店頭公開しました。店頭公開をしたときの会社の売上は、30億円にも満たなかったのです。ところが店頭公開をしたときに、何がメリットがあったかというと、当時はスイスでCBを発行できたということがありました。そのCBを使って、新しい研究所とか工場をつくる資金にできて、それが今の研究所、製造工場に発展してきたというのが、一番キーになったのではないかと思っています。

長尾 [Q]：2点目に伺いたいの、改めてこのタイミングで交代される理由です。先ほどもありましたが、これは会長兼社長の芦田様に伺うのですが、どんな局面に現在あるかというのを改めてご説明いただいて、その会社をどんなふうに道筋を歩んでいってもらいたいのか、そして新たな代表を2人選ばれた理由を改めて教えてください。

芦田信 [A]：今の時点は皆さんご存知と思いますが、私も80を過ぎておりまして、もうそんなに長く生きていけるわけではないし、能力も多分どんどん落ちてくると感じています。数年前から指名・報酬等委員会を中心に、どういった体制をつくったらいいかということを考えてきました。われわれの会社を考えると、やはりものは売っているけれども、先ほど申しましたようにベンチャー的なところがあって、本当に研究を自由にやらせてもらう。

今回、社長になってもらう蘆田も、私がこれをやれ、あれをやれということは1回も言ったことがなかったと思います。自由にやって、そしてお金はできるだけ研究につき込んで、それといいもの

サポート

日本

050-5212-7790

フリーダイヤル

0120-966-744

メールアドレス support@scriptasia.com



をつくるというところで、製造部門にもお金を投じてきました。これが良かったと思っていますし、これからもこの精神を持って、すばらしい JCR として発展していただきたいということで、彼らを選んだというのが理由です。

長尾 [M]：ありがとうございます。

司会 [M]：ありがとうございました。それでは続いてのご質問、山木田様、お願いいたします。

山木田 [Q]：ジェフリーズ証券の山木田と申します。ありがとうございます。私からも 2 問お願いします。

まず 1 問目です。米国の状況、関税であったり、薬価引き下げだったり、FDA の状況であったり、結構めまぐるしく最近変わっているのですが、何か御社が特に注目していることであったり、御社のリスクになりうるようなことはありますか。直接的なリスクは限定的だと思うのですが、何か間接的にでも考えられることがあれば教えてください。

ベシエ [A]*：現在伝えていきますように、引き続き FDA とも連携をしております。今のところ、タイムラインあるいはエンゲージメントということで、違いは気づいておりません。将来どうなるのかということはコメントが難しいのですが、今の段階ではそういった変化が、われわれが行っているオペレーションに大きな影響を与えるという理由はないと考えております。ただ、われわれとしては今後のイベントについて注視し、大きな差異が出るようであれば、それに対して反応して、対応しなければならないと思っております。

山木田 [Q]：ありがとうございます。2 問目です。経営体制の変更ですが、先ほどからお話を伺っていくと、どちらかという若返りというのがテーマとされていて、ベンチャーのようなスピード感のある経営体制になっていくと感じています。そういう意味で、どこまでベンチャーのような経営体制にしていくのかというところで、もしかしたら新しく株式を発行して、新しい分野への投資に回していくとか、そういったレベルでの若返りというか、ベンチャー化も考えられるのでしょうか。

芦田信 [A]：新しく株式を発行してとか、そういうこともいろいろな選択肢があると思うのですが、われわれとしてはできるだけ研究投資にお金を投じられるような環境をつくってほしいということが、私の若い経営者たちに望んでいることになります。

藺田 [A]：誤解があるとあれなのでコメントしますと、ベンチャーって株式を発行して、お金を工面してという、そういうベンチャー精神を目指しているわけではあまりなくて。今後、それを否定はしませんが。ただ、われわれが感じているベンチャー精神は、創薬に対するスピリットのところ

サポート

日本

050-5212-7790

フリーダイヤル

0120-966-744

メールアドレス support@scriptasia.com



です。そういうリスクを取って、新しいものにどんどんチャレンジしていくと、それをわれわれはベンチャー精神だと呼んでいます。収益を守るために守りに入って、例えばジェネリック、バイオシミラー、そういったもので食いつないでいくのではなくて、やはり患者さんが欲しいと思っている、必要だと思われる技術、薬、ここに果敢に挑戦していくと、投資していくと、研究をやっていくと、そういうことに対してのベンチャー精神だと受け止めてもらえるとうれしいです。

山木田 [M]：大変よく理解できました。ありがとうございます。私からは以上です。

司会 [M]：ありがとうございました。それでは続いてのご質問、岡田様、お願いいたします。

岡田 [Q]：お世話になります。薬事日報社の岡田と申します。

まず1点目ですが、新しい会長、社長を選ばれる際の条件、年齢であったり、何か条件などはあったのでしょうか。

芦田信 [A]：先ほどからお話しているように、ある意味研究を中心に発展してきた、これを継続してほしいということから、菌田をまず選んだ。それをサポートする、金銭的にもまた人事的にもサポートできるようなということで、芦田透を選んだというのが、2人を考えた一番の理由です。そのほかに、これから彼ら2人をサポートする人たち、これを1年間かけていい体制をつくりたいと考えております。

芦田透 [A]：私自身は、JCRに入社前は治験の業界には十数年身を置いておりましたけれども、製薬業界出身でもありませんが、先ほど会長からも話がありましたとおり、本当に私が小学生の頃に創業して、本当に子どもながらに、その頃は創業10年ぐらいですかね、自宅に社員、研究者、工場の人たちがしょっちゅう来ていました。また私自身が高校生のときは、先ほど言っていたウロキナーゼの工場にアルバイトに行ったり、町工場の時代からのスピリットというか、そういった部分が本当に体に染みついている部分が実際ございます。

そういった意味で、先ほど菌田からお話のあったベンチャー精神で、ベンチャー精神というものはリスクも伴うのですが、そこをしっかりと私自身ができることを、研究、JCRにしかできないイノベーションを、これから次の50年も出せていけるような組織、風土、そういった部分をつくっていけるように、菌田を支えていきたいと考えております。

岡田 [Q]：わかりました。ありがとうございます。もう1点です。ちょっと確認になるのですが、今期の契約金収入のところ、こちらはJR-141がメインという認識、JR-171が先ほど入っていないというお話だったのですが、これはそういう認識で間違いないでしょうか。

サポート

日本 050-5212-7790
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com



伊藤 [A]：今のご質問ですけれども、今期の契約金収入には、JR-141 も JR-171 も入っておりません。内容につきましては先ほど申し上げたとおり、先期契約を想定しておりました契約ができませんで、今期にずれ込んでいるもの、あるいは共同研究先との間での研究の進捗によるマイルストーンによる収入等を見込んでおります。ですから、そういう意味ではアセットといたしますか、JR-141 と JR-171 とか、そういったものの導出による契約収入は、今期の予算の中には含んでいないということでございます。

岡田 [Q]：去年も JR-141、JR-171 は含んでいなかったということですか。

伊藤 [A]：いや、去年は JR-141 は含んでおりません。JR-171 につきましては、当初の予算には含んでおりました。ただ、これは1月だったと思いますが下方修正をしまして、そのときの理由としましては、JR-171 の導出を昨年度できると考えておりました予算に計上しておりましたが、その契約の見込みがなくなったということで、下方修正をしたということでございます。

岡田 [Q]：わかりました。今期見込んでいる製品は、教えていただけたりするのですか。

伊藤 [A]：今期見込んでいるものは何かということについては、回答を控えさせていただきます。

岡田 [M]：わかりました。ありがとうございました。

司会 [M]：ありがとうございました。それでは続いてのご質問、橋口様、お願いいたします。

橋口 [Q]：大和証券の橋口です。ありがとうございます。

一つ目は、契約金収入の計画の立て方と御社の導出交渉に対してのスタンスの関係性についてです。JR-141 は単独で、フェーズIII試験が続いていらっしゃいますから、開発の進展にパートナーが見つかる、見つからないはあまり関係ないのかもしれませんが。一方で、JR-171 については、以前から伺っているお話ですと、今後さらに開発を進めるためには、パートナーが見つかることが必要ということだったかと思えます。そういう意味では、JR-171 については契約一時金、業績予想には織り込んでいないものの、御社としてはできるだけ早い時期にパートナーを見つけたいと、そういったスタンスで交渉されているという理解でいいのか。それとも少し時間をかけていらっしゃるような状況でしょうか。

伊藤 [A]：橋口さん、ご質問ありがとうございます。おっしゃるとおりで、JR-171 につきましては今、パートナーリングを前提とするアセットでございます。これについては、今も複数の会社と話をしておりまして、われわれとしましては、できるだけ早く JR-171 を導出したいと考えております。

サポート

日本 050-5212-7790
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com



橋口 [Q]：ありがとうございます。にも関わらず、計画に入れていないのは、どういうふうに理解すればいいのでしょうか。

伊藤 [A]：そういう意味では、去年も先ほど申し上げましたように、2度下方修正をしましたので、できるだけ下方修正はしたくないという気持ちがございます。そういった観点で、JR-171 につきましては、今回の契約金収入の予想には入れていないということでございます。

橋口 [Q]：はい、ありがとうございます。2点目がJR-141について、FDAからブレイクスルーセラピーの指定を受けましたというアナウンスを見たことがないのですが、この要因はどう理解すればいいのでしょうか。デナリはJR-141とよく似た化合物、また米国における臨床試験の開発状況については、よく似た状況にある化合物について、ブレイクスルーセラピーを受けている、FDAのサポートを受けられているようですが、御社はこれを申請はされていないのでしょうか。されているとして、もし御社がその指定を受けられていないとすれば、デナリとの違いはどこに出ているとお考えでしょうか。

ベシェ [A]*：これはおっしゃるとおりです。今の時点では、まだやっていかなければならないところとなっております。

橋口 [Q]：つまり、まだ申請もされていらっしゃらないということでしょうか。

ベシェ [A]*：数年前に申請はしたのですが、データが十分進んでいなかったもので、指定はまだ受けられておりません。

橋口 [Q]：向こうの考え方も変わってきている部分があるのではないかと思いますので、近い将来にもう一度改めてチャレンジしてみる、そういった可能性はあるという理解でよろしいでしょうか。

ベシェ [A]*：これは、FDAとの幅広いディスカッションの一部になると思っています。その時期が来ましたらお伝えしたいと思っております。

橋口 [M]：ありがとうございます。

司会 [M]：それでは続いてのご質問、成田様、お願いいたします。

成田 [Q]：日刊薬業の成田と申します。私から1点お伺いしたいのですが、会長兼社長の芦田様です。来々年4月1日取締役ファウンダーに就かれるということですが、今後お二人に経営を任せられるということですが、芦田様自身はどのように今後関わっていかれるのか、どのようなスタンスでおられるのかをお伺いしたいと思います。よろしく申し上げます。

サポート

日本 050-5212-7790
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com



芦田信 [A]：私は2人とそれを取り巻く人たちに経営を任せますが、今までの私の関係している企業とか、人たちとの話を彼らに任せますが、サポートしてうまくそういう会社とのコンタクトがいくように、側面からサポートするというのが私の仕事になるのではないかと考えています。

成田 [M]：ありがとうございます。

司会 [M]：ありがとうございました。それでは続いてのご質問、村岡様、お願いいたします。

村岡 [Q]：ありがとうございます。モルガン・スタンレーの村岡です。契約金のところで確認をしたいのですが、3月に終わった期の下方修正をされたときに、契約金は期ずれだと今日もおっしゃっていましたが、うまくいけば4-6月には入れるみたいなニュアンスで、IRの方とお話した記憶があります。この4-6月に、今期の55億円のうちのかなりのウェイトの部分が入金できる蓋然性は高いと聞いていいのでしょうか。

伊藤 [A]：その件につきましては、期ずれした契約がいつできるのかということですが、これにつきましては上半期に契約を締結することを今想定しております。

村岡 [Q]：つまり、4-6月というよりは7-9月に考えたほうがいい状況ですか。

伊藤 [A]：そうですね、そのほうが可能性としては高いと認識しております。

村岡 [Q]：わかりました。終わった期の分は、ここの50億円相当は期ずれだったと仮定すると、3月までに終わった分が発生していれば、今期はこの55億円のガイダンスは、ほぼほぼ5億円ぐらいになる。ただ足し算、引き算の話ですが。今期、もしかしたら前年の期ずれがなかったら、普通に走れば30億円の赤字のガイダンスになっていたということになるのでしょうか。たまたま期ずれて、今期は黒字ガイダンスでスタートできて良かったねということでしょうか。それとも、いやいやまだまだJR-171の件も含めて、今期は相当上積みができるはずだと思ったほうがいいのでしょうか。

伊藤 [A]：今期について、上積みはどこまでできるかということについては、今それを申し上げるような状況ではないと思います。今期について、前期から期ずれした分をまず今期に計上して、今期は黒字になりますということですが、これがもしなければというご質問でございましたが、その場合にはまた別の契約金の収入も想定できたのではないかと考えておりますので、残念ながら先期は赤字になってしまいましたが、ここから黒字を続けていけるような体制をつくっていきたいと考えております。

村岡 [Q]：わかりました。ありがとうございます。もう一つ、FDAのミーティングの件ですが、いわゆるタイプBミーティングという理解でよろしいのでしょうか。

サポート

日本 050-5212-7790
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com

ベシエ [A]*：この場合は、タイプCのミーティングということになります。

村岡 [Q]：僕の知る限り、タイプBが申請前相談、タイプCは違うタイプの相談だったと思うのですが、私の理解が間違えていますか。

ベシエ [A]*：違ったミーティング、FDAのタイプがありますので、違ったターゲットがありますが、全てのそれぞれの開発のステージにフィットいたします。それは、こういった答えを求めているかということにかかっているわけです。われわれとしましては、このミーティングに関しましては、例えば加速承認と、それからまたこれからの進行を評価するという意味で、タイプCの答えをまとめているということです。

村岡 [M]：わかりました。ありがとうございます。以上です。

司会 [M]：ありがとうございました。それでは続いてのご質問、長尾様、お願いいたします。

長尾 [Q]：度々失礼します。神戸新聞の**長尾**です。2点、今回赤字となりましたけれども、それは何年何月期以来となりますでしょうか。そのときに赤字になった理由を伺いたと思います。

芦田信 [A]：何年何月期はちょっと失念しましたが、われわれ尿からウロキナーゼを取ったり、トリプシンのインヒビターを取ったり、それから白血球のインターフェロンを取ったりしていた時期に、クロイツフェルトヤコブ病が発症しました。クロイツフェルトヤコブ病は、人の血液からも、また尿からも感染する可能性があるということで、そういうものを認めないということに厚労省がなった時期がありました。そのときにたくさんの粗原料をわれわれが持っていて、1年目が尿、2年目が血液の粗原料を落としたときに赤字になったという記憶があります。

長尾 [Q]：すいません、相当昔の創業期のような。

芦田信 [A]：創業期ではなく、われわれのやっていたような抽出のものからリコンビナントのものに変わっていく、そういう時期だったと思っています。

長尾 [Q]：なるほど。後で広報からでも伺うことは可能でしょうか。

伊藤 [A]：すいません、補足させていただきます。伊藤でございます。赤字になったのはいつかというご質問でございましたけれども、2006年3月期と2007年3月期でございます。

長尾 [Q]：そのときは何でというふうに、今のご説明になるのでしょうか。

伊藤 [A]：そのとき状況は、今、会長の芦田から説明をさせていただいたとおりでございます。

サポート

日本

050-5212-7790

フリーダイヤル

0120-966-744

メールアドレス support@scriptsasias.com

長尾 [Q]：なるほど。二つ目に関してですが、すいません、今回ちょっと専門的用語、ウロキナーゼもですが、これは尿由来のタンパク質分解酵素、これの製造が祖業であると理解しているのですが、この酵素はどんな用途で使われていたものでしょうか。何の原料ですか。

芦田信 [A]：これはウロキナーゼといって、血栓を溶解する酵素です。尿からその酵素を生成して、静脈から注射で入れる物質です。一番初めにこれを医薬品にしたのが昔のミドリ十字、2番目が持田製薬が製造して、何年か忘れましたがその後、日本の大手の会社が10社ぐらい、このウロキナーゼを販売するために、われわれから原料を買ったというのが会社のスタートです。

長尾 [Q]：ウロキナーゼというのは、どういう表記が正しいのでしょうか。最初につくったものは。

芦田信 [A]：多分、ミドリ十字はウロキナーゼ、持田さんがウロナーゼかな、そんな名前だったと思います。

長尾 [Q]：なるほど、各社さんの製品名であって、JCRさんがつくられたものは。

芦田信 [A]：われわれは原料を供給したということです。

長尾 [Q]：なるほど、尿由来の原料ですね。わかりました。ありがとうございます。

司会 [M]：ありがとうございました。ほかにご質問はいかがでしょうか。ご質問がないようでしたら、以上で質疑応答を終了させていただきます。それでは以上をもちまして、JCR ファーマ株式会社 2025年3月期決算説明会を終了いたします。皆様、本日はご参加いただき、誠にありがとうございました。

[了]

脚注

1. 音声不明瞭な箇所に付いては[音声不明瞭]と記載
2. 会話は[Q]は質問、[A]は回答、[M]はそのどちらでもない場合を示す
3. 本トランスクリプトは企業の同時通訳音源を書き起こした内容を含む
4. *は企業の同時通訳の書き起こしを示す

サポート

日本 050-5212-7790
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com

免責事項

本資料で提供されるコンテンツの信憑性、正確性、完全性、最新性、網羅性、適時性等について、SCRIPTS Asia 株式会社（以下、「当社」という）は一切の瑕疵担保責任及び保証責任を負いません。

本資料または当社及びデータソース先の商標、商号は、当社との個別の書面契約なしでは、いかなる投資商品（価格、リターン、パフォーマンスが、本サービスに基づいている、または連動している投資商品、例えば金融派生商品、仕組商品、投資信託、投資資産等）の情報配信・取引・販売促進・広告宣伝に関連して使用してはなりません。

本資料を通じて利用者に提供された情報は、投資に関するアドバイスまたは証券売買の勧誘を目的としておりません。本資料を利用した利用者による一切の行為は、すべて利用者の責任で行っていただきます。かかる利用及び行為の結果についても、利用者が責任を負うものとします。

本資料に関連して利用者が被った損害、損失、費用、並びに、本資料の提供の中断、停止、利用不能、変更及び当社による利用者の情報の削除、利用者の登録の取消し等に関連して利用者が被った損害、損失、費用につき、当社及びデータソース先は賠償又は補償する責任を一切負わないものとします。なお、本項における「損害、損失、費用」には、直接的損害及び通常損害のみならず、逸失利益、事業機会の喪失、データの喪失、事業の中断、その他間接的、特別的、派生的若しくは付随的損害の全てを意味します。

本資料に含まれる全ての著作権等の知的財産権は、特に明示された場合を除いて、当社に帰属します。また、本資料において特に明示された場合を除いて、事前の同意なく、これら著作物等の全部又は一部について、複製、送信、表示、実施、配布（有料・無料を問いません）、ライセンスの付与、変更、事後の使用を目的としての保存、その他の使用をすることはできません。

本資料のコンテンツは、当社によって編集されている可能性があります。

サポート

日本 050-5212-7790
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com